平成30年度

西土佐地域の高齢者の外出に関するアンケート調査報告書

調査の概要 …… 1 ページ

調査票 …… 2 ページ

単純集計

Ⅰ 基本的な質問項目 …… 4 ページ

Ⅱ 買い物に関係すること …… 7 ページ

Ⅲ 通院に関係すること …… 11 ページ

Ⅳ 日常生活での外出の問題点 …… 14 ページ

Ⅴ その他、ご意見・ご要望 …… 16 ページ

クロス集計 …… 17 ページ

まとめ・考察 …… 28 ページ

西土佐地域生活支援等サービス体制整備推進会議

西土佐地域の高齢者の外出に関するアンケート調査

― 地域の助け合い活動の創出に向けて ―

1.背　景

西土佐地域の過疎・高齢化は深刻な状況であり、タクシー業者もなくなったことにより地域の高齢者の外出に関するニーズが多く聞かれている。今後も高齢者の外出に関連するニーズは増大することが予測される。

2.目　的

「移動」は「手段」であって「目的」ではないため、地域の高齢者が何を求めているのか、何に困っているのか当該調査にて詳細な分析を行っていく。その結果を踏まえ、既存の社会資源やネットワーク等を活用しながらニーズに即した助け合い活動の創出につなげていくことを目的とする。

3.アンケート調査

（1）対 象 者　西土佐地域の高齢者

（2）調査方法　西土佐地域推進会議のメンバーによる聞き取り調査

（3）調査期間　平成30年６月１日～平成30年７月10日

（4）回収件数　103名

（5）回 収 率　7.95%（回収件数 / 西土佐地域の高齢者人口 2018/4/1時点）

4.個人情報

本調査で収集した個人情報は、個人情報保護法の趣旨にのっとり適切に使用する。原則、当該調査の集計にのみ使用。目的以外（個別支援等で関係機関と共有する際）で使用する場合は本人の同意を求めることとする。

西土佐地域生活支援等サービス体制整備推進会議

事務局：四万十市社会福祉協議会 西土佐支所
電話：31-6111　FAX：31-6112

調査協力機関：あったかふれあいセンターNPOいちいの郷
電話：53-2020　FAX：53-2020

西土佐地域の高齢者の外出に関するアンケート調査

西土佐地域の高齢者の皆さまの日ごろの外出に関する状況について調査を行い、実態に即した地域の取組みの強化を図っていきたいと考えています。可能な範囲で結構ですので、標記アンケート調査にご協力をお願いいたします。

Ⅰ あなた自身について教えてください。

問１　性　別	ア 男性　　イ 女性
問２　年齢層	ア 65歳未満　　イ 65歳～74歳　　ウ 75歳～84歳 エ 85歳以上
問３　住まい	（自治区名を記入　　）地区
問４　同居者	ア 無し イ 有り　同居者の続柄：（同居者全てを記入　　）

Ⅱ　あなたの買い物（食料品）に関係することについて教えてください。

問１　移動手段	ア 自動車（自操）　　イ 自動車（同乗：誰の運転か記入　　） ウ 徒歩・自転車　　エ デマンド交通　　オ 路線バス カ その他（　　）
問２　主な店舗	店舗名：（　　）
問３　頻　　度	月に（　　）回くらい

Ⅲ　あなたの通院に関係することについて教えてください。

問１　移動手段	ア 自動車（自操）　　イ 自動車（同乗：誰の運転か記入　　） ウ 徒歩・自転車　　エ デマンド交通　　オ 路線バス カ 診療所バス　　その他（　　）
問２　主な病院	病院名：（　　）
問３　頻　　度	月に（　　）回くらい

裏面につづく…

Ⅳ　日常生活での外出の問題点についてご意見をください。

問１ 日ごろ、外出する際にお困りのことはありますか？　※3つまで

ア 今のところ困っていない
イ 自動車の運転をやめたいが、他の移動手段がないのでやめられない
ウ 自動車を運転できず、バスも利用できず、自由に移動できない
エ 家族や地域の人に送迎をお願いするのは気が引ける
オ タクシーを利用しているが、家計への負担が大きい
カ 自由に移動できないため、外出に誘われても断ることがある
キ もう少しこまめに買い物に行きたいが、回数を制限している
ク もう少しこまめに病院に行きたいが、回数を制限している
ケ 地域の行事に参加したいが、参加できない
コ その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問2　デマンドバス・路線バスを利用しないのはどうしてですか？　※３つまで

ア 今のところバスを利用する必要がないため
イ バス停までいくことが困難なため
ウ バスの利用方法、バスの時刻やどこへ行くのかがわからないため
エ バスは時間がかかりすぎるため
オ 運賃が高いため
カ 段差があり乗り降りしづらいため
キ 重い荷物を持っている際に不便なため
ク 外出する際に「バスを利用しよう」と思わないため
ケ バスに馴染みがなく抵抗があるため
コ その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

Ⅴ　その他、ご意見・ご要望等ありましたらご自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。

西土佐地域生活支援等サービス体制整備推進会議

事務局：四万十市社会福祉協議会　西土佐支所

電話：31-6111　FAX：31-6112

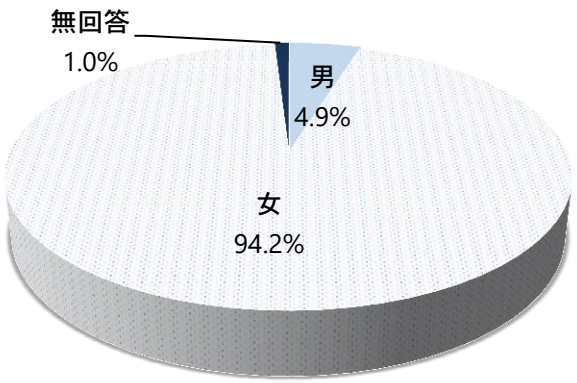
調査協力機関：あったかふれあいセンターNPOいちいの郷

電話：53-2020　FAX：53-2020

Ⅰ　基本的な調査項目

問１　性別

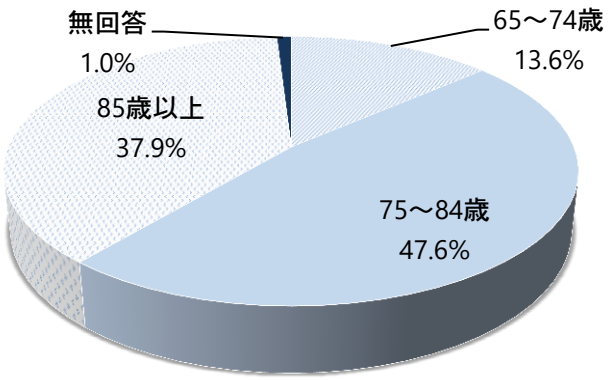
	計	（%）
男	5	4.9%
女	97	94.2%
無回答	1	1.0%
計	103	100%



いちいの郷のサテライト会場等で当該調査を実施したこともあり「女性」が94.2％と圧倒的に多くを占めている。やはり「男性」は介護予防や交流の場への参加は少ない傾向にあり、閉じこもりがちな状況が予測できる。

問２　年齢層

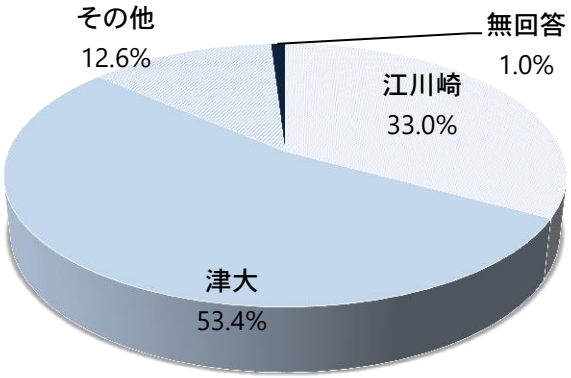
	計	（%）
65歳未満	0	0.0%
65～74歳	14	13.6%
75～84歳	49	47.6%
85歳以上	39	37.9%
無回答	1	1.0%
計	103	100%



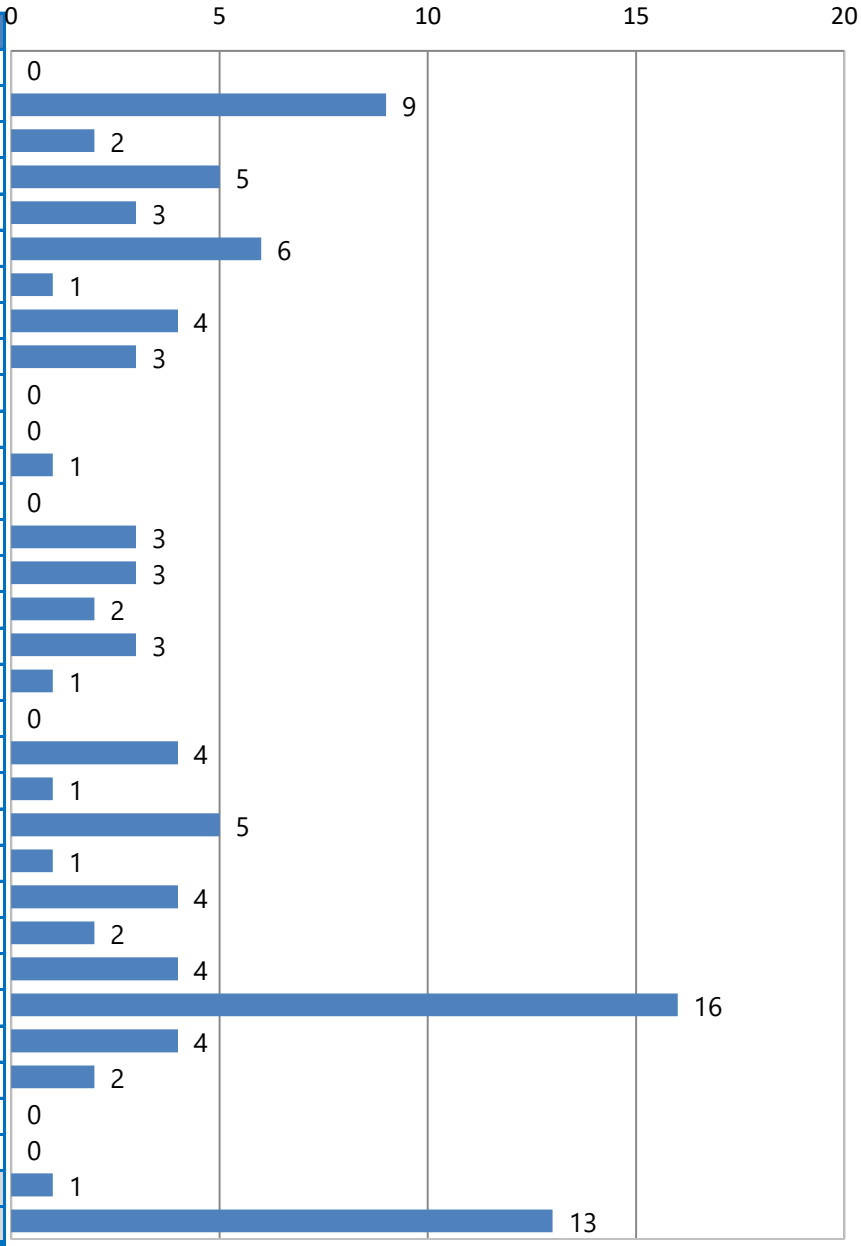
「75～84歳」が最も多く47.6％を占め、「85歳以上」で37.9％と若干減少する傾向がある。「85歳以上」では、心身機能の低下による介護保険サービスへの移行や施設ケアへの移行などが考えられる。

問３　住まい

	計	（%）
江川崎	34	33.0%
津大	55	53.4%
その他	13	12.6%
無回答	1	1.0%
計	103	100%



		計	（%）
江川崎	方の川	0	0.0%
	西ヶ方	9	8.7%
	下方	2	1.9%
	宮地	5	4.9%
	奈路	3	2.9%
	用井	6	5.8%
	長生	1	1.0%
	半家	4	3.9%
	本村	3	2.9%
	中組	0	0.0%
	押谷	0	0.0%
	権谷	1	1.0%
	館	0	0.0%
津大	奥屋内上	3	2.9%
	奥屋内下	3	2.9%
	玖木	2	1.9%
	口屋内	3	2.9%
	中半	1	1.0%
	岩間	0	0.0%
	藤ノ川	4	3.9%
	橘	1	1.0%
	津野川	5	4.9%
	津賀	1	1.0%
	薮ケ市	4	3.9%
	須崎	2	1.9%
	大宮下	4	3.9%
	大宮中	16	15.5%
	大宮上	4	3.9%
	下家地	2	1.9%
	中家地	0	0.0%
	芽生	0	0.0%
無回答		1	1.0%
その他		13	12.6%
計		103	100%

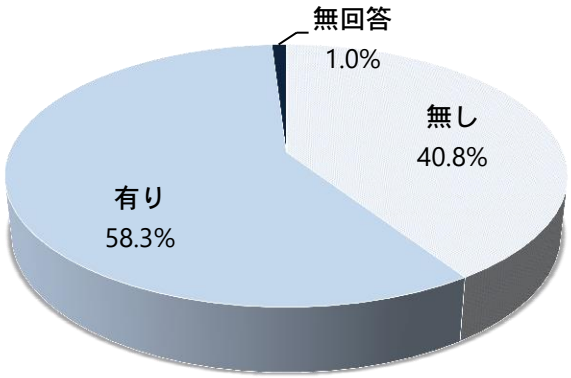


※「その他」には、「江川」や「上・中・下」等、具体の地区名が記載されていない場合をカウントしています。

いちいの郷が拠点を置く大宮地区やサテライト会場周辺地区が多くを占めている。

問４　同居者

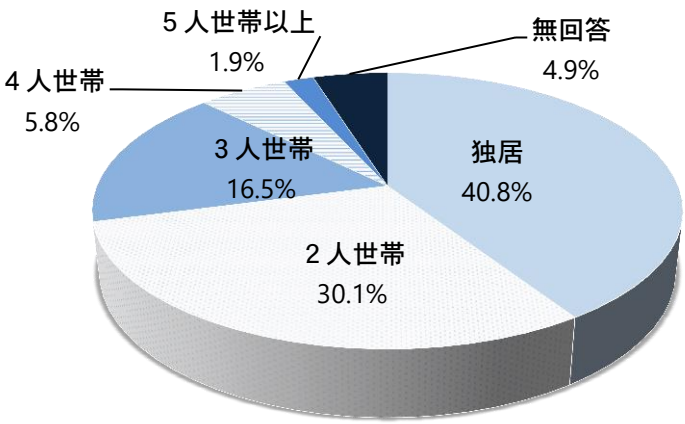
	計	（%）
無し	42	40.8%
有り	60	58.3%
無回答	1	1.0%
計	103	100%



同居者の有無では、「有り」が58.3％と半数以上を占めている。世帯人員の内訳は次の問5のとおりとなっている。

問５　世帯人員

	計	（%）
独居	42	40.8%
２人世帯	31	30.1%
３人世帯	17	16.5%
４人世帯	6	5.8%
５人世帯以上	2	1.9%
無回答	5	4.9%
計	103	100%

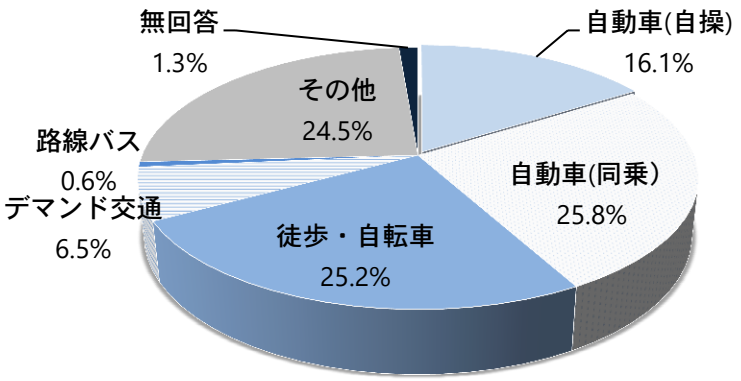


「独居」が40.8％を占め、次いで「2人世帯」が30.1％となっている。

Ⅱ　買い物に関係すること

問１　移動手段（複数回答可）

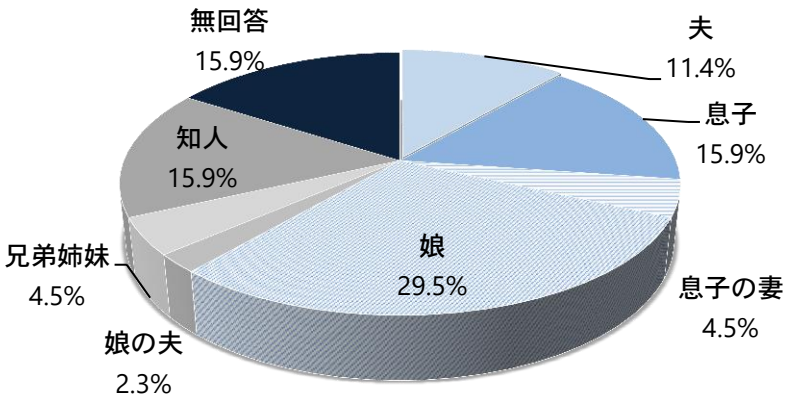
	計	（%）
自動車(自操)	25	16.1%
自動車(同乗)	40	25.8%
徒歩・自転車	39	25.2%
デマンド交通	10	6.5%
路線バス	1	0.6%
その他	38	24.5%
無回答	2	1.3%
計	155	100%



買い物についての移動手段では、「自動車（同乗）」が25.8%、「徒歩・自転車」が25.2%と高い傾向が見受けられる。「その他」で多いのは「移動販売」や「家族が買ってくる」となっている。

問１-①　同乗の場合の運転者の内訳

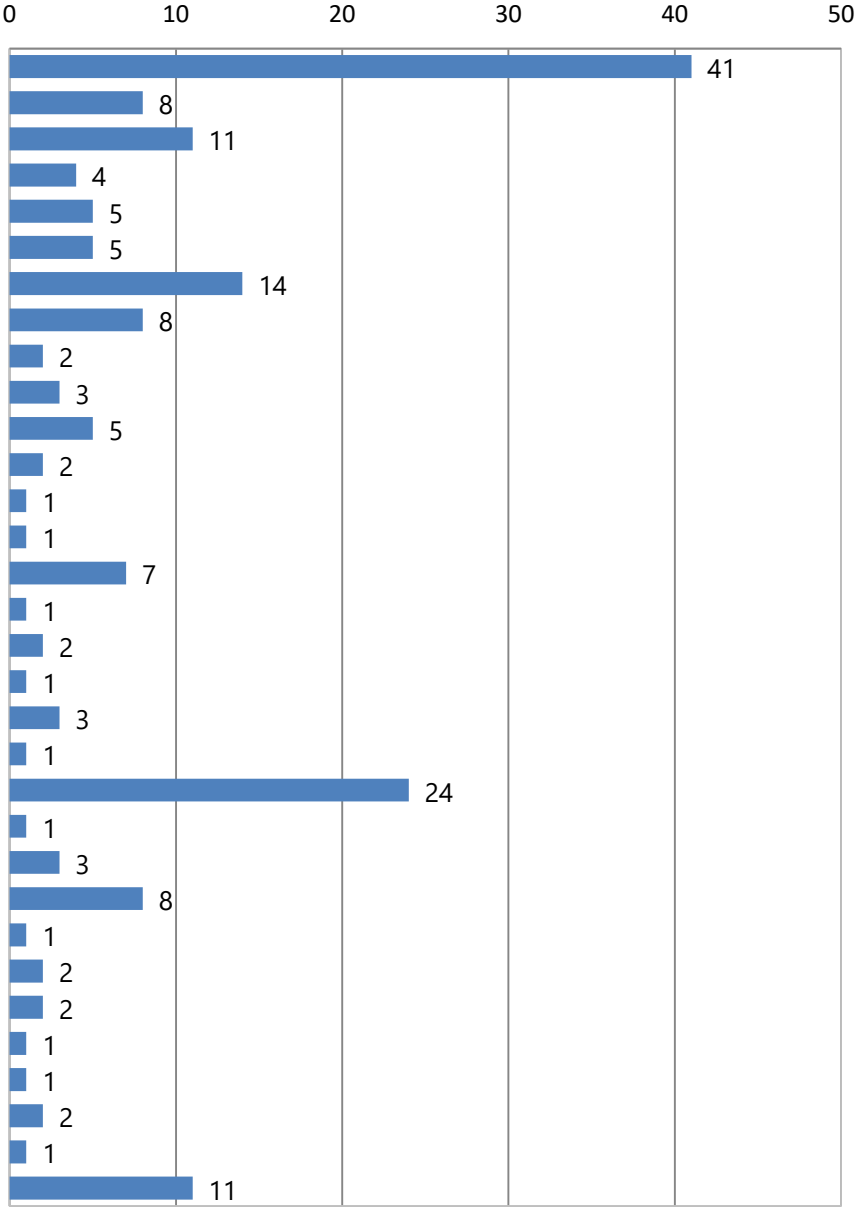
	計	（%）
夫	5	11.4%
妻	0	0.0%
息子	7	15.9%
息子の妻	2	4.5%
娘	13	29.5%
娘の夫	1	2.3%
孫	0	0.0%
兄弟姉妹	2	4.5%
知人	7	15.9%
無回答	7	15.9%
計	44	100%



前の問1で「自動車（同乗）」と答えた方の運転者の内訳では、「娘」が29.5%に次いで「息子」15.9%及び「知人」の15.9%と高くなっており、少なからず地縁に基づく助け合いが展開されていることがわかる。

問２　主な店舗（複数回答可）

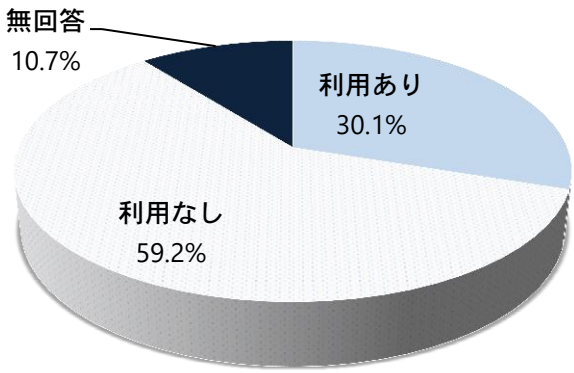
	計	（%）
彦市	41	22.5%
横山精肉店	8	4.4%
よって西土佐	11	6.0%
山口商店	4	2.2%
竹村鮮魚店	5	2.7%
大宮産業	5	2.7%
セドヤ	14	7.7%
中西本店	8	4.4%
竹崎商店	2	1.1%
生協	3	1.6%
森商店	5	2.7%
ヤスダ	2	1.1%
竹内百貨店	1	0.5%
竹内理髪店	1	0.5%
岡村鮮魚店	7	3.8%
JAスーパー	1	9.1%
フジ（中村）	2	1.1%
フジ（具同）	1	0.5%
フジ	3	1.6%
サニーマート	1	0.5%
フジ（鬼北町）	24	13.2%
セイムス（鬼北町）	1	0.5%
Aコープ（松野町）	3	1.6%
しんばし	8	4.4%
メディコ	1	0.5%
コーナン	2	1.1%
ダイレックス	2	1.1%
近永	1	0.5%
訪問販売	1	0.5%
愛媛県のスーパー	2	1.1%
高知大丸	1	0.5%
無回答	11	6.0%
計	182	109%



「彦市」が22.5％と多くを占めている。西土佐地域の中山間を巡回する移動販売（個人商店）の利用者も多い状況がある。一方で、中村地域のスーパーの利用は少数でありながら愛媛県のスーパーを利用する方は多く、移動距離や道路環境等により市外で消費する方も多い状況がうかがえる。

問２-①　主な店舗（移動販売の利用状況）

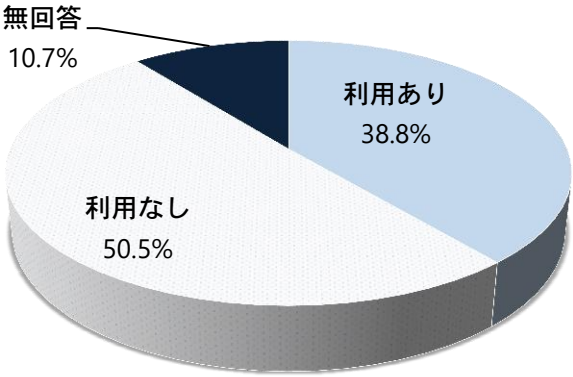
	計	（%）
利用あり	31	30.1%
利用なし	61	59.2%
無回答	11	10.7%
計	103	100%



当該調査における移動販売の利用状況では「利用あり」が30.1%、「利用なし」が59.2%となってる。

問２-②　主な店舗（市外の店舗の利用状況）

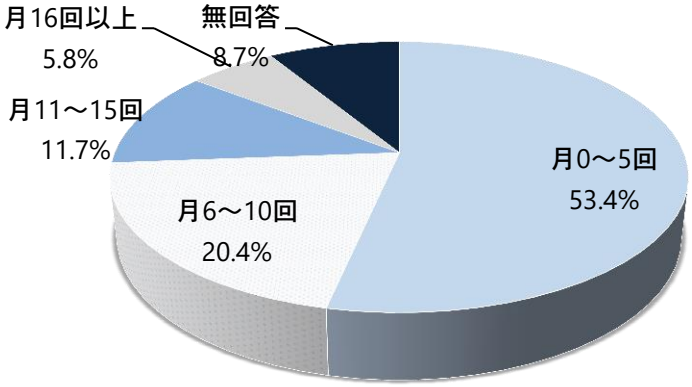
	計	（%）
利用あり	40	38.8%
利用なし	52	50.5%
無回答	11	10.7%
計	103	100%



市外の店舗の利用状況では「利用あり」が38.8%となっており、市外で日常の買い物を行っている状況がわかる。

問３　頻度

	計	（%）
月0～5回	55	53.4%
月6～10回	21	20.4%
月11～15回	12	11.7%
月16回以上	6	5.8%
無回答	9	8.7%
計	103	100%

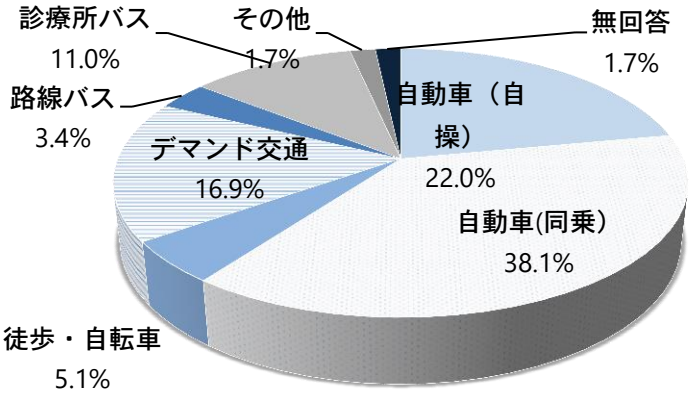


買い物の頻度では、「月0～5回」が最多で53.4％となっており、回数が多くなるにつれて減少する傾向がある。

Ⅲ　通院に関係すること

問１　移動手段（複数回答可）

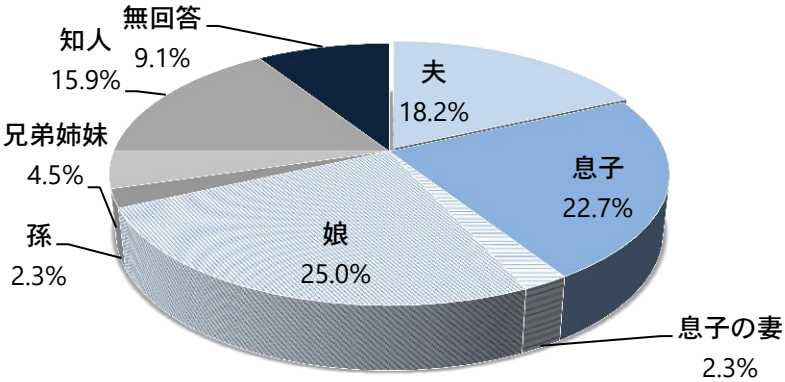
	計	（%）
自動車（自操）	26	22.0%
自動車(同乗)	45	38.1%
徒歩・自転車	6	5.1%
デマンド交通	20	16.9%
路線バス	4	3.4%
診療所バス	13	11.0%
その他	2	1.7%
無回答	2	1.7%
計	118	100%



通院についての移動手段では、「自動車（同乗）」が38.1％と高くなっている。特徴としては、買い物の同項目と比較し「デマンド交通」が16.9％と高い傾向がある。

問１-①　同乗の場合の運転者の内訳

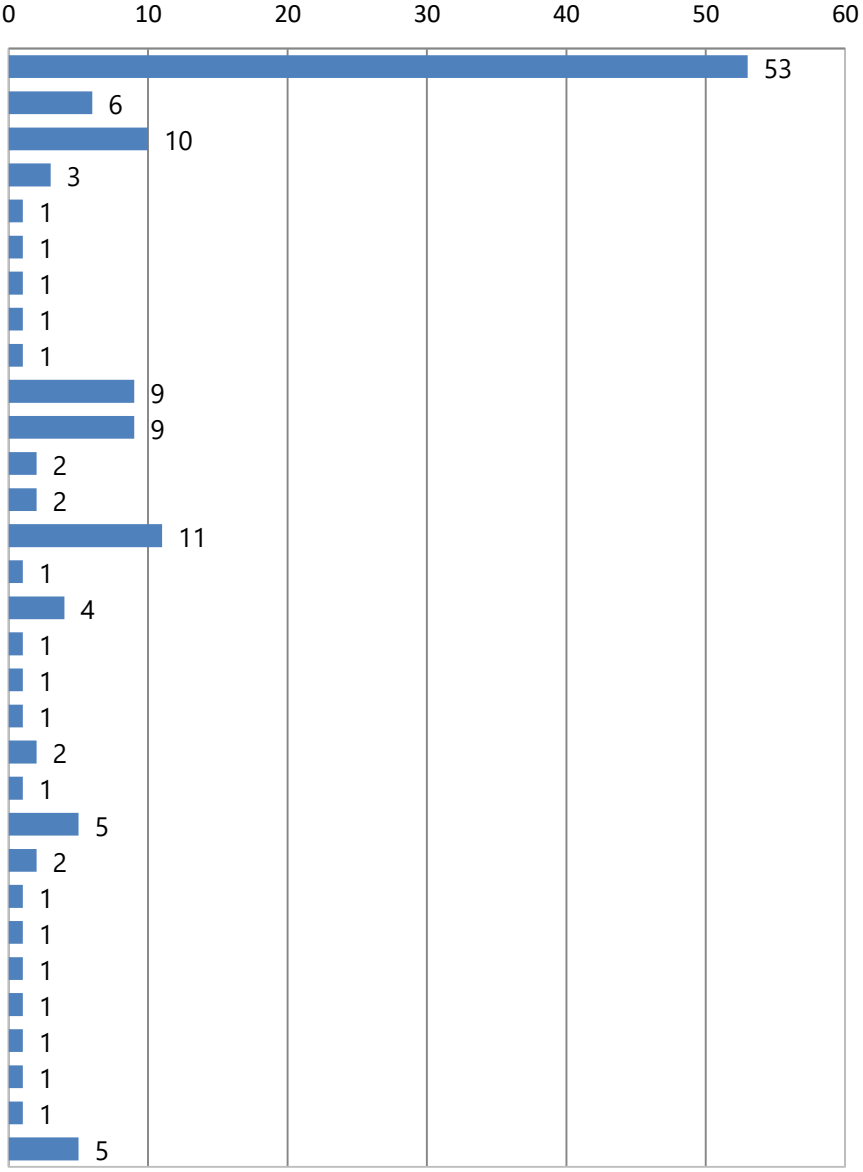
	計	（%）
夫	8	18.2%
妻	0	0.0%
息子	10	22.7%
息子の妻	1	2.3%
娘	11	25.0%
娘の夫	0	0.0%
孫	1	2.3%
兄弟姉妹	2	4.5%
知人	7	15.9%
無回答	4	9.1%
計	44	100%



前の問1で「自動車（同乗）」と答えた方の運転者の内訳では、「娘」が25.0％、「息子」が22.7％と多く、次いで「夫」の18.2％となっている。「知人」も15.9％となっており、少なからず通院場面においても地縁に基づく助け合いが展開されていることがわかる。

問２　主な病院（複数回答可）

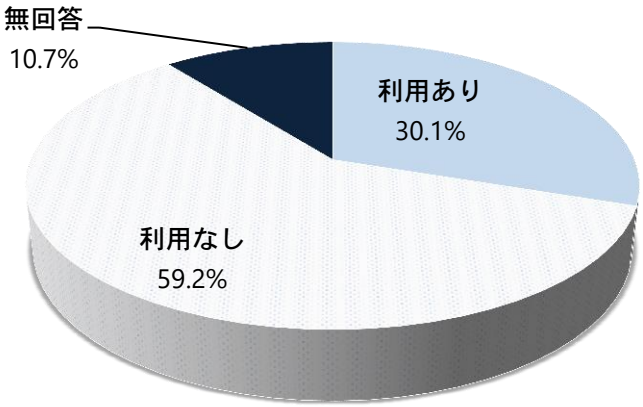
	計	（%）
西土佐診療所	53	37.9%
奥屋内出張診療所	6	4.3%
大宮出張診療所	10	7.1%
口屋内出張診療所	3	2.1%
四万十市民病院	1	0.7%
山下眼科	1	0.7%
こじま眼科	1	0.7%
竹本病院	1	0.7%
大野内科	1	0.7%
宇和島病院	9	6.4%
北宇和病院	9	6.4%
南宇和病院	2	1.4%
南愛媛病院	2	1.4%
岡宮眼科	11	7.9%
松林眼科	1	0.7%
阿部眼科	4	2.9%
宇和島眼科	1	0.7%
山本医院	1	0.7%
山中医院	1	0.7%
松野町中央診療所	2	1.4%
ジェイコー宇和島病院	1	0.7%
篠原医院	5	3.6%
石村整形外科	2	1.4%
ますだ歯科医院	1	0.7%
かとう整形	1	0.7%
宇和島徳洲会病院	1	0.7%
岡村歯科	1	0.7%
菜の花診療所	1	0.7%
高知医療センター	1	0.7%
幡多けんみん病院	1	0.7%
無回答	5	3.6%
計	140	100%



「西土佐診療所」が37.9％と多くを占めている。一方で、中村地域の医療機関は少数でありながら愛媛県の医療機関を利用する方は多く、買い物同様に移動時間や道路環境等により市外で受診している状況がうかがえる。

問２-①　主な病院（市外の医療機関の利用状況）

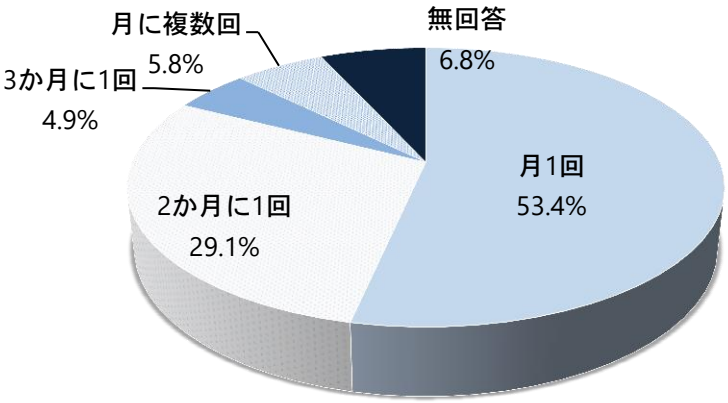
	計	（%）
利用あり	46	44.7%
利用なし	52	50.5%
無回答	5	4.9%
計	103	100%



市外の医療機関の利用状況では「利用あり」が30.1%、「利用なし」が59.2%となっており、市外で医療を受けている状況がある。

問３　頻度

	計	（%）
月1回	55	53.4%
2か月に1回	30	29.1%
3か月に1回	5	4.9%
月に複数回	6	5.8%
その他	0	0.0%
無回答	7	6.8%
計	103	100%



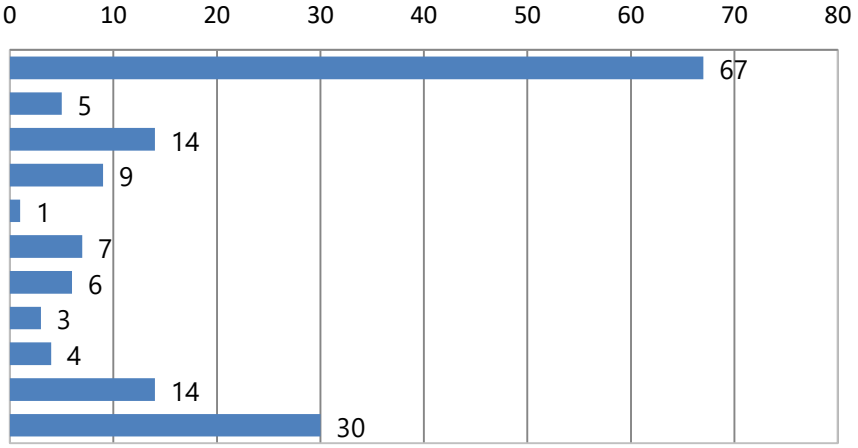
通院の頻度では、「月1回」が最多で53.4%となっている。

Ⅳ　日常生活での外出の問題点について

問１　日ごろ、外出する際にお困りのことはありますか？（３つまで）

ア 今のところ困っていない
イ 自動車の運転をやめたいが、他の移動手段がないのでやめられない
ウ 自動車の運転ができず、バスも利用できず、自由に移動できない
エ 家族や地域の人に送迎をお願いするのは気が引ける
オ タクシーを利用しているが、家計への負担が大きい
カ 自由に移動できないため、外出に誘われても断ることがある
キ もう少しこまめに買い物に行きたいが、回数を制限している
ク もう少しこまめに病院に行きたいが、回数を制限している
ケ 地域の行事に参加したいが、参加できない
コ その他（下に別途記載）

	計	（%）
ア	67	41.9%
イ	5	3.1%
ウ	14	8.8%
エ	9	5.6%
オ	1	0.6%
カ	7	4.4%
キ	6	3.8%
ク	3	1.9%
ケ	4	2.5%
コ	14	8.8%
無回答	30	18.8%
計	160	100%



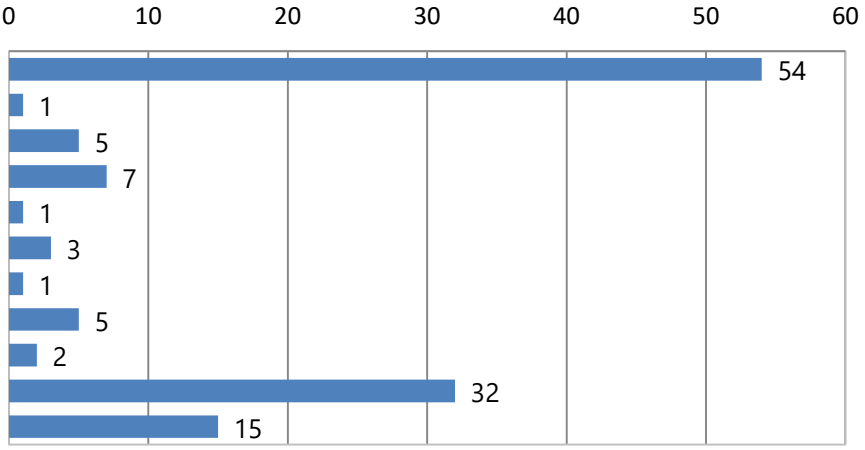
▼その他の記述内容
- 足が痛いのでバスに乗るまでが大変。
- 膝が痛いので乗り物に乗るまでが大変。
- どこへいくにもデマンドを利用している。
- 歩くことが困難なため。
- バイクなので雨の時に乗りにくい。
- すねが痛くて移動が疲れる。
- 目が見えなくなってきているので、時刻表などが見えず遠方にはいけない。自分の子には声をかけやすいが近隣の人には声をかけれない。
- 目が見えないので自由に移動できない。
- タクシーが欲しい。
- 足が不自由で出ていきたくない。
- 長時間移動のトイレ。
- 冷凍で対応している。移動販売業者の商品は古いものがある。しかも高額。
- 体調面で不安がある（難聴）。

「いまのところ困っていない」が41.9％と多くを占める。次いで、「自動車の運転ができず、バスも利用できず、自由に移動できない」が多く、移動範囲が限定的になっている高齢者がいる状況がうかがえる。

■問２　デマンドバス・路線バスを利用しないのはどうしてですか？（３つまで）

ア 今のところバスを利用する必要がないため
イ バス停までいくことが困難なため
ウ バスの利用方法、バスの時刻やどこへ行くのかがわからないため
エ バスは時間がかかりすぎるため
オ 運賃が高いため
カ 段差があり乗り降りしづらいため
キ 重い荷物を持っている際に不便なため
ク 外出する際に「バスを利用しよう」と思わないため
ケ バスに馴染みがなく抵抗があるため
コ その他（下に別途記載）

	計	（%）
ア	54	42.9%
イ	1	0.8%
ウ	5	4.0%
エ	7	5.6%
オ	1	0.8%
カ	3	2.4%
キ	1	0.8%
ク	5	4.0%
ケ	2	1.6%
コ	32	25.4%
無回答	15	11.9%
計	126	100%



▼その他の記述内容
- 歯医者の時に利用するがその他は家族が来てくれる。
- 自家用車に乗っているためバスの利用はない。
- 手続きがめんどうだから。
- 利用している。
- 家族がいるので頼めば移動できる。
- 家族が連れて行ってくれるので利用していない。
- 1～2回利用したがやめた。利用しなくても子どもに頼めるから。
- 目が見えない時間表が全く見えないのでバス利用が不安だ。
- デマンドはめんどう。
- デマンドを日曜にも運行していただくと有難い。タクシーがあると急用に間に合っていい。県外の運転免許がない家族が戻った時に非常に困る。

「いまのところバスを利用する必要がないため」が42.9％を占める。

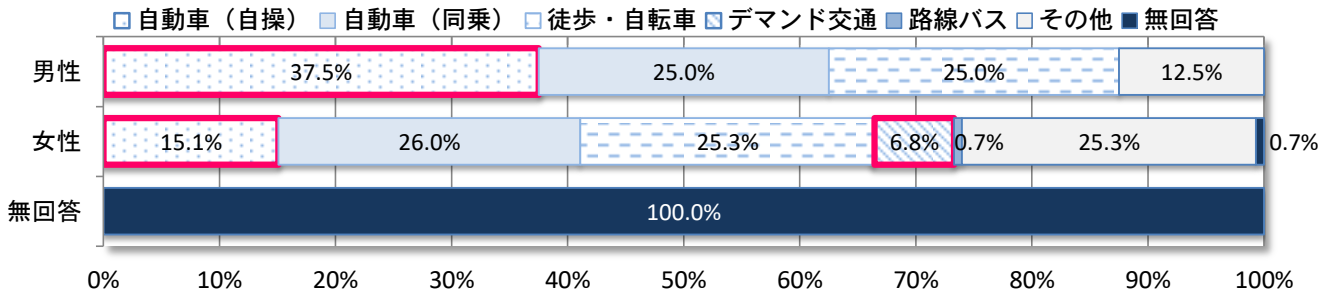
Ⅴ　その他、ご意見・ご要望など

- 日曜・祝日の運行を希望します。
- 好きな時に利用できるタクシーがほしい。
- 自宅が高いところにありデマンドバス利用するには100段くらいある石段を降りなければならない。今はいいが自宅まで車で上れる道があればありがたい。昔近隣の土地所有者に依頼したが断られた。
- デマンドバスを利用したいが、日・祝を運行していないので利用できない。
- 利用する手続きがややこしく融通が利かない。
- 手続きがややこしい。
- タクシー必要です。
- タクシーがあればいい。急に外出しなければいけない時や家族が自宅にいない時なんかには必要になる。
- タクシーがないので不便です。
- タクシーがない。緊急時に近隣の送迎がない。
- 夜が心配。電話しても近隣が高齢者のため、すぐに駆けつけれない。
- あちこち寄ると夜遅くなる時に少し困る。
- タクシーが必要。一人の時や急な用事があるときは必要。
- タクシーや介護タクシーがあれば急な用事ができた時には利用できる。
- 市が経営してでもタクシー会社を作って自由に外出できるようにしてほしい強く願います。
- 今のところ外出に困っていないが、デマンドバスは予約しないと利用できないのでタクシーがあれば免許を返納しても安心。
- バスに乗りたいが前の日の予約で丁度いい時間にバスが合っても乗れない。
- 近所にお店がなく野菜の買いだめができないのが困る。
- 西土佐以外に外出した場合、江川崎からの便が不便、融通が利かない。
- 手続きがめんどくさい。
- もっと本数が多ければ便利。本数が少なすぎる。ちなみにタクシーは乗ったことがない。
- 自分で移動できていますので、今のところ何もありません。
- 診療所の帰りのバスの時間が長くて困る。1時間前の予約という仕組みがあるので好きな時間に乗車できない。
- タクシーが必要。一人の時や急な用事があるときは必要。
- 運転手がいなくなると困る。
- 自由な時にりようできるタクシーがほしい。
- 近所の人の便に乗せてもらう。

クロス集計

性別　×　移動手段（買い物）

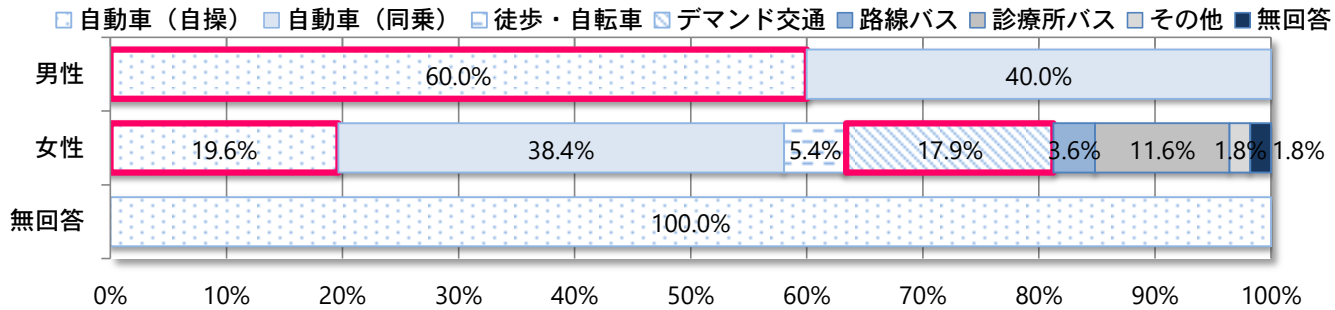
		移動手段（買い物）							計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	その他	無回答		
性別	男性	3	2	2	0	0	1	0	8	5.2%
	女性	22	38	37	10	1	37	1	146	94.2%
	無回答	0	0	0	0	0	0	1	1	0.6%
計		25	40	39	10	1	38	2	155	100%
（%）		16.1%	25.8%	25.2%	6.5%	0.6%	24.5%	1.3%		



買い物の移動手段と性別の比較では、「男性」の方が「自動車（自操）」が37.5％と高い傾向にあり、「デマンド交通」の利用割合は「男性」が0％に対して「女性」が6.8％が高くなっている。

性別　×　移動手段（通院）

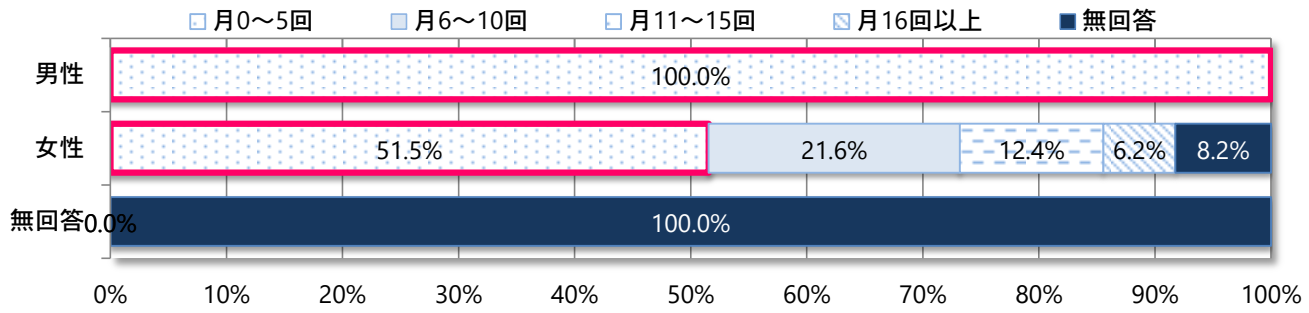
		移動手段（通院）								計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	診療所バス	その他	無回答		
性別	男性	3	2	0	0	0	0	0	0	5	4.2%
	女性	22	43	6	20	4	13	2	2	112	94.9%
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.8%
計		26	45	6	20	4	13	2	2	118	100%
（%）		22.0%	38.1%	5.1%	16.9%	3.4%	1300.0%	1.7%	1.7%		



通院の移動手段と性別の比較では、「男性」の方が「自動車（自操）」が60.0％と高い傾向にある。「デマンド交通」の利用割合は「男性」が0％に対して「女性」が17.9％が高くなっている。また、「女性」の移動手段には多様性がある。

性別　×　頻度（買い物）

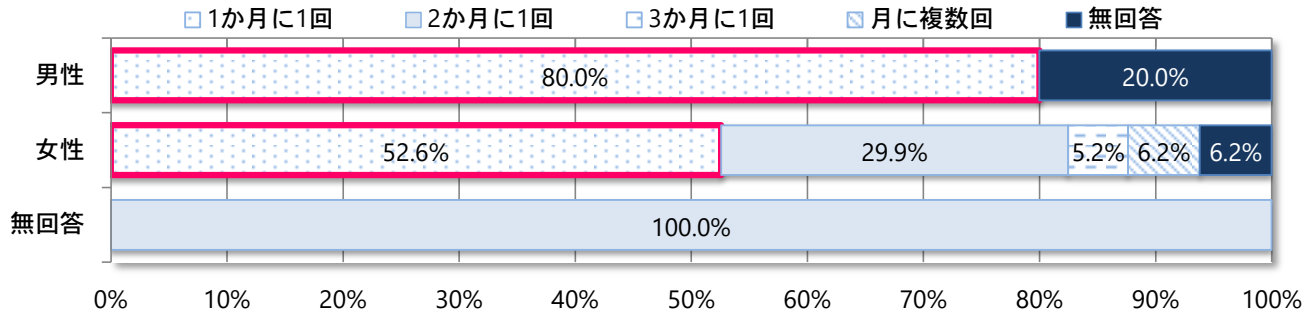
		買い物の頻度					計	（%）
		月0～5回	月6～10回	月11～15回	月16回以上	無回答		
性別	男性	5	0	0	0	0	5	4.9%
	女性	50	21	12	6	8	97	94.2%
	無回答	0	0	0	0	1	1	1.0%
計		55	21	12	6	9	103	100%
（%）		53.4%	20.4%	11.7%	5.8%	8.7%		



買い物の頻度と性別の比較では、「男性」は「月0～5回」が100%であり、買い物の頻度が少ない傾向にある。「女性」も同様に「月0～5回」最も多い結果となったが、買い物の頻度に多様性がある。

性別　×　頻度（通院）

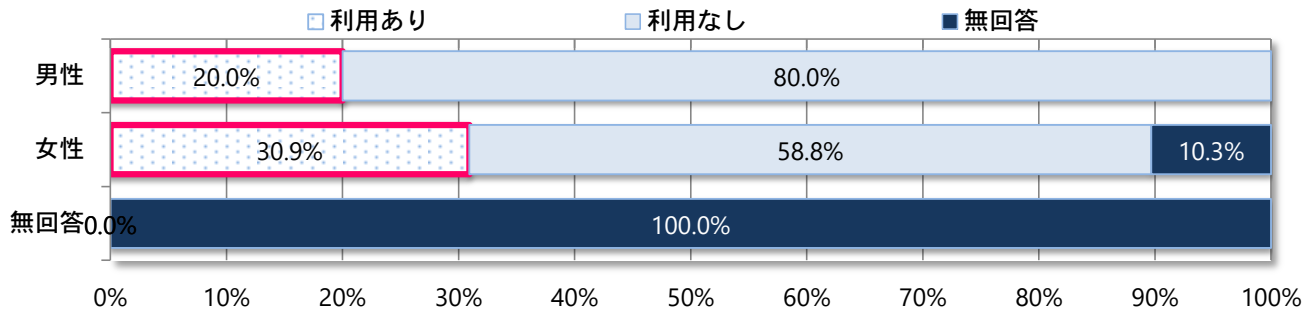
		通院の頻度					計	（%）
		1か月に1回	2か月に1回	3か月に1回	月に複数回	無回答		
性別	男性	4	0	0	0	1	5	4.9%
	女性	51	29	5	6	6	97	94.2%
	無回答	0	1	0	0	0	1	1.0%
計		55	30	5	6	7	103	100%
（%）		53.4%	29.1%	4.9%	5.8%	6.8%		



通院の頻度と性別の比較では、「男性」は通院の頻度が少ない傾向にあり、「女性」では通院頻度にも多様性がある。

性別　×　移動販売等の利用

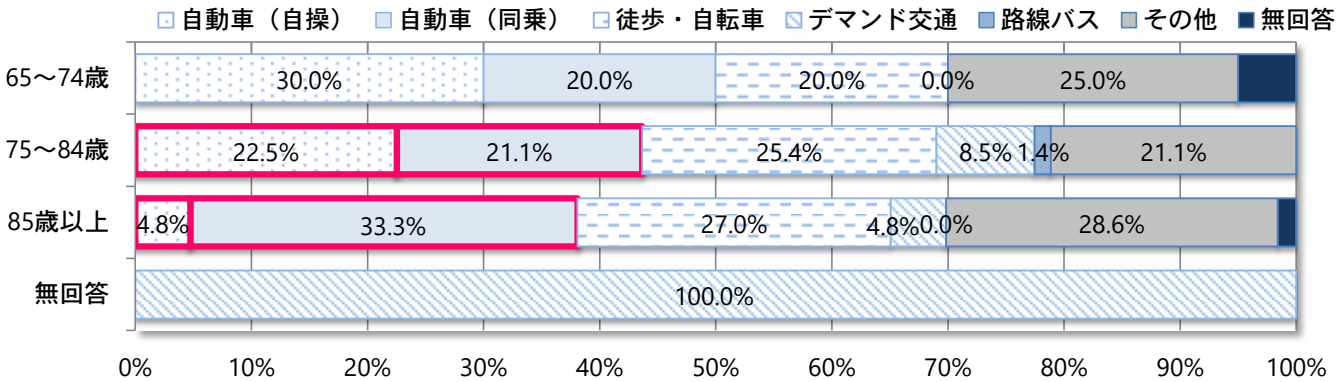
		行商等の利用			計	（%）
		利用あり	利用なし	無回答		
性別	男性	1	4	0	5	4.9%
	女性	30	57	10	97	94.2%
	無回答	0	0	1	1	1.0%
計		31	61	11	103	100%
（%）		30.1%	59.2%	10.7%		



移動販売の利用と性別の比較では、「利用あり」の割合が「男性」で低い傾向がある。

年齢層　×　移動手段（買い物）

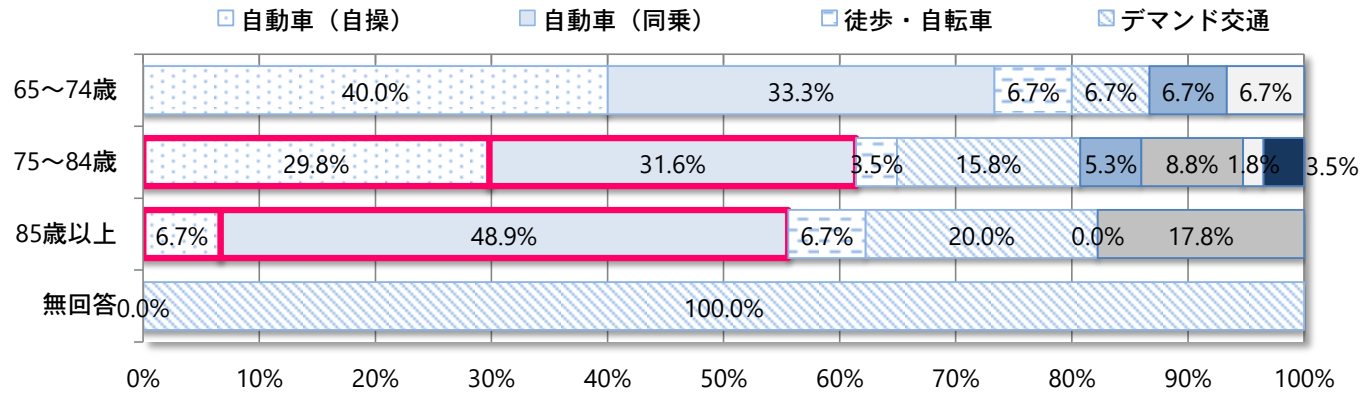
		移動手段（買い物）							計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	その他	無回答		
年齢層	65～74歳	6	4	4	0	0	5	1	20	12.9%
	75～84歳	16	15	18	6	1	15	0	71	45.8%
	85歳以上	3	21	17	3	0	18	1	63	40.6%
	無回答	0	0	0	1	0	0	0	1	0.6%
計		25	40	39	10	1	38	2	155	100%
（%）		16.1%	25.8%	25.2%	6.5%	0.6%	24.5%	1.3%		



買い物の移動手段と年齢層の比較では、加齢に伴い、「自動車（自操）」の割合が減少し、「自動車（同乗）」の割合が増加する傾向がある。

年齢層　×　移動手段（通院）

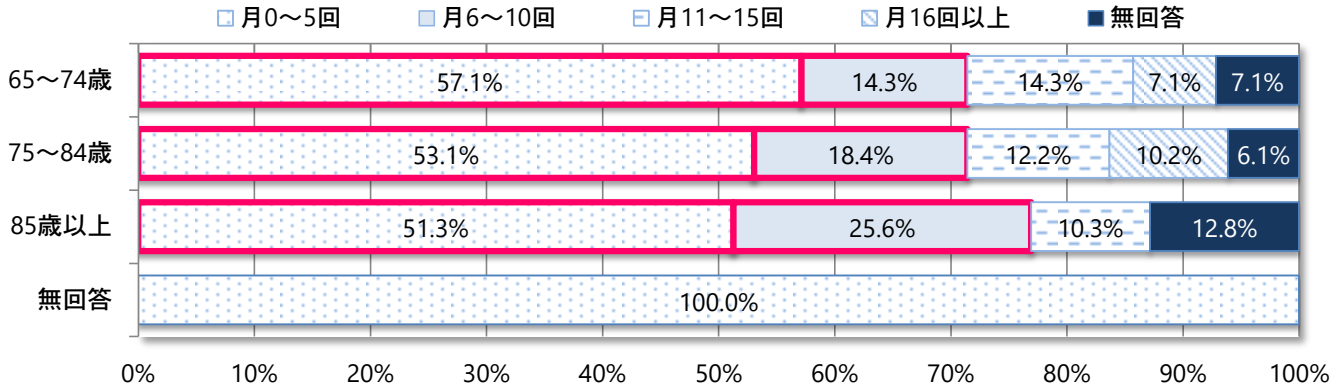
		移動手段（通院）								計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	診療所バス	その他	無回答		
年齢層	65～74歳	6	5	1	1	1	0	1	0	15	12.7%
	75～84歳	17	18	2	9	3	5	1	2	57	48.3%
	85歳以上	3	22	3	9	0	8	0	0	45	38.1%
	無回答	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.8%
計		26	45	6	20	4	13	2	2	118	100%
（%）		22.0%	38.1%	5.1%	16.9%	3.4%	11.0%	1.7%	1.7%		



通院の移動手段と年齢層の比較では、買い物の移動手段と同様に、加齢に伴い「自動車（自操）」の割合が減少し、「自動車（同乗）」の割合が増加する傾向がある。

年齢層　×　頻度（買い物）

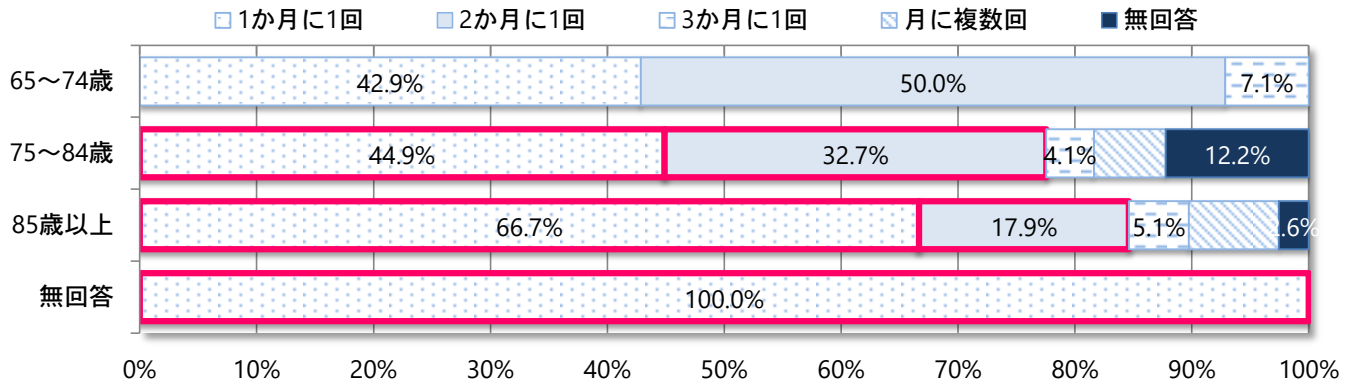
		買い物の頻度					計	（%）
		月0～5回	月6～10回	月11～15回	月16回以上	無回答		
年齢層	65～74歳	8	2	2	1	1	14	13.6%
	75～84歳	26	9	6	5	3	49	47.6%
	85歳以上	20	10	4	0	5	39	37.9%
	無回答	1	0	0	0	0	1	1.0%
計		55	21	12	6	9	103	100%
（%）		53.4%	20.4%	11.7%	5.8%	8.7%		



買い物の頻度と年齢層の比較では、どの年齢層においても「月0～5回」が最も多くなっている。加齢に伴い、「月6～10回」の割合が多くなる傾向が見られた。

年齢層　×　頻度（通院）

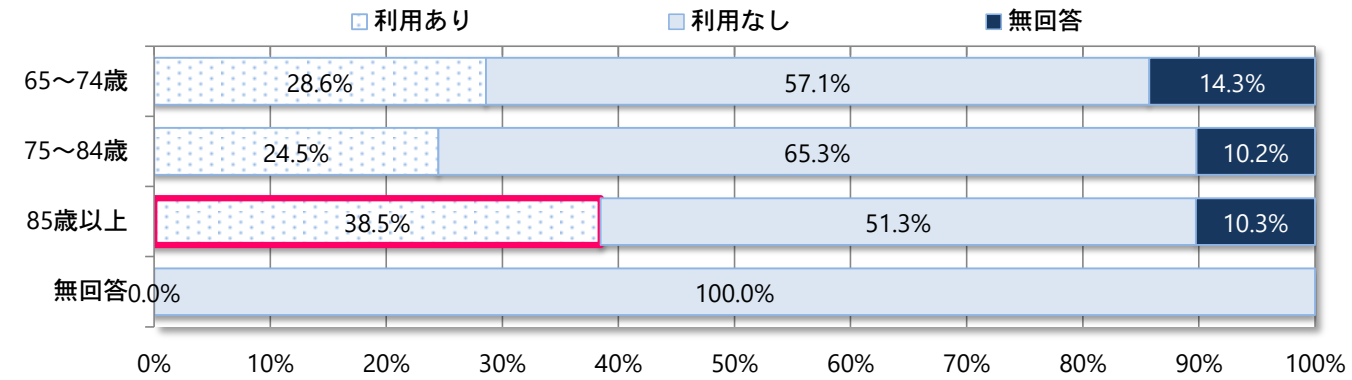
		通院の頻度					計	（%）
		1か月に1回	2か月に1回	3か月に1回	月に複数回	無回答		
年齢層	65～74歳	6	7	1	0	0	14	13.6%
	75～84歳	22	16	2	3	6	49	47.6%
	85歳以上	26	7	2	3	1	39	37.9%
	無回答	1	0	0	0	0	1	1.0%
計		55	30	5	6	7	103	100%
（%）		53.4%	29.1%	4.9%	5.8%	6.8%		



通院の頻度と年齢層の比較では、加齢に伴い、「1か月に1回」が増加し、「2か月に1回」が減少する傾向があり、加齢とともに通院頻度は減少している。

年齢層　×　移動販売等の利用

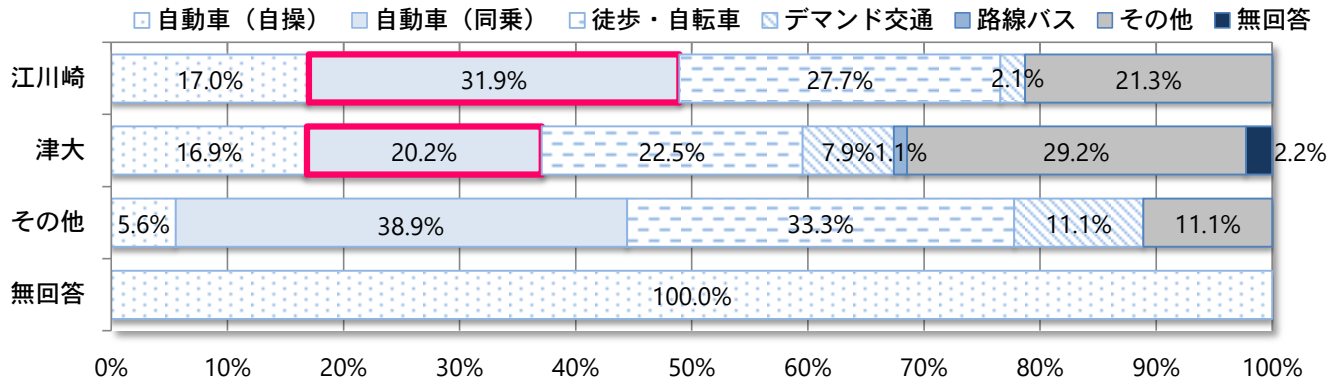
		行商等の利用			計	（%）
		利用あり	利用なし	無回答		
年齢層	65～74歳	4	8	2	14	13.6%
	75～84歳	12	32	5	49	47.6%
	85歳以上	15	20	4	39	37.9%
	無回答	0	1	0	1	1.0%
計		31	61	11	103	100%
（%）		30.1%	59.2%	10.7%		



移動販売等の利用状況と年齢層の比較では、「利用あり」の割合は「85歳以上」で38.5%と最も高くなっている。

地区　×　移動手段（買い物）

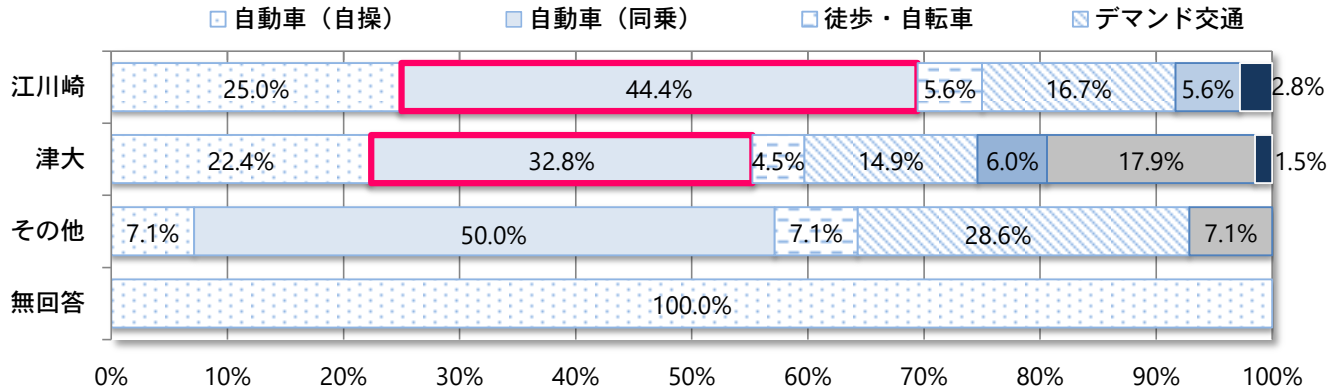
		移動手段（買い物）							計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	その他	無回答		
地区	江川崎	8	15	13	1	0	10	0	47	30.3%
	津大	15	18	20	7	1	26	2	89	57.4%
	その他	1	7	6	2	0	2	0	18	11.6%
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	1	0.6%
計		25	40	39	10	1	38	2	155	100%
（%）		16.1%	25.8%	25.2%	6.5%	0.6%	24.5%	1.3%		



買い物の移動手段と地区の比較では、「自動車（同乗）」の割合は「江川崎」で31.9%と高くなっている。

地区　×　移動手段（通院）

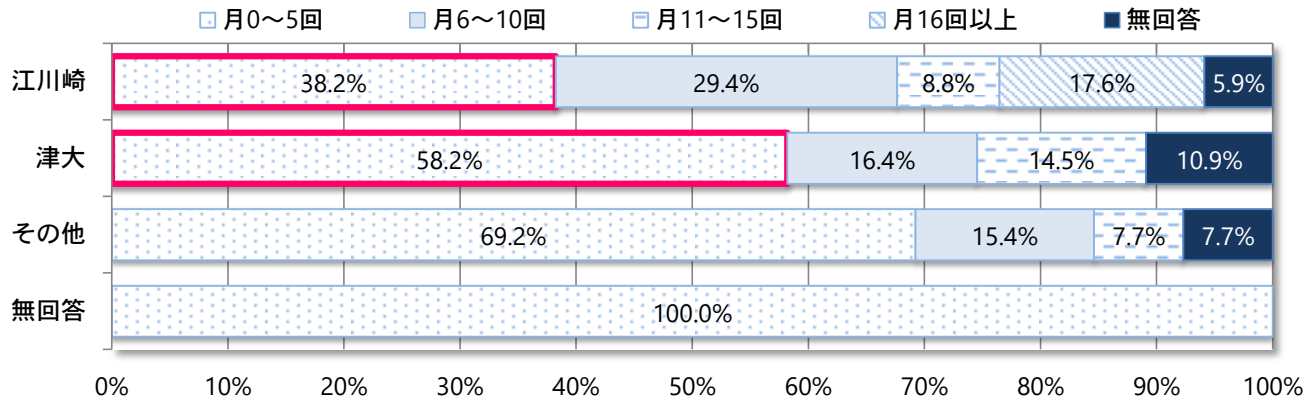
		移動手段（通院）								計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	路線バス	その他	無回答		
地区	江川崎	9	16	2	6	0	0	2	1	36	30.5%
	津大	15	22	3	10	4	12	0	1	67	56.8%
	その他	1	7	1	4	0	1	0	0	14	11.9%
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.8%
計		26	45	6	20	4	13	2	2	118	100%
（%）		22.0%	38.1%	5.1%	16.9%	3.4%	1300.0%	1.7%	1.7%		



通院の移動手段と地区の比較では、「自動車（同乗）」の割合は「江川崎」で44.4%と高くなっている。

地区　×　頻度（買い物）

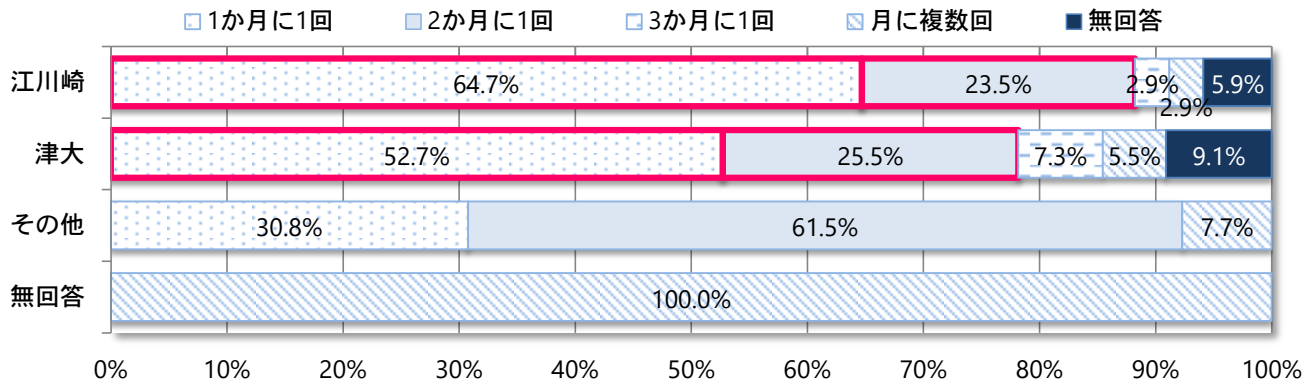
		買い物の頻度					計	（%）
		月0～5回	月6～10回	月11～15回	月16回以上	無回答		
地区	江川崎	13	10	3	6	2	34	33.0%
	津大	32	9	8	0	6	55	53.4%
	その他	9	2	1	0	1	13	12.6%
	無回答	1	0	0	0	0	1	1.0%
計		55	21	12	6	9	103	100%
（%）		53.4%	20.4%	11.7%	5.8%	8.7%		



買い物の頻度と地区の比較では、「月0~5回」の割合は「津大」の方が58.2％高く、「江川崎」では「月6~10回」の割合は「津大」と比べて高い傾向にある。「江川崎」には、彦市や道の駅よって西土佐といった主要な店舗があり、頻回に通いやすい環境にあることが要因と考えられる。

地区　×　頻度（通院）

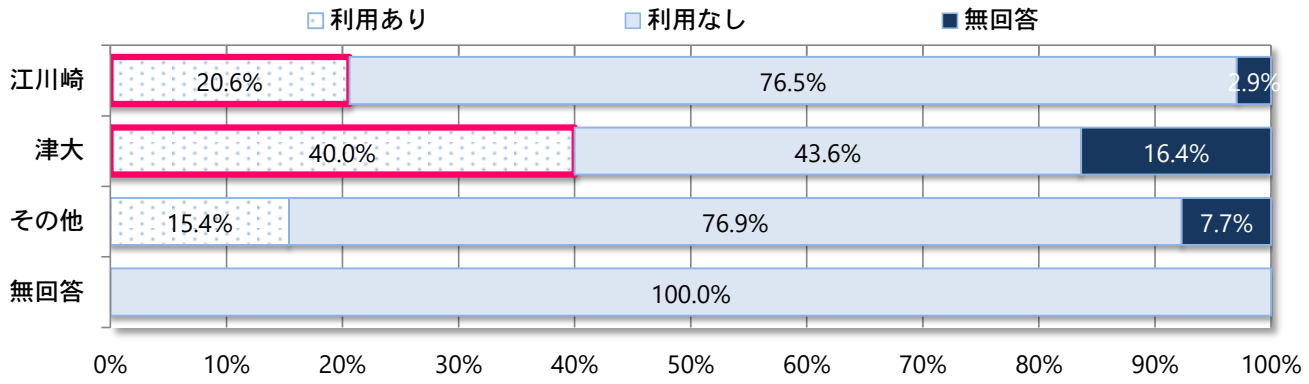
		通院の頻度					計	（%）
		1か月に1回	2か月に1回	3か月に1回	月に複数回	無回答		
地区	江川崎	22	8	1	1	2	34	33.0%
	津大	29	14	4	3	5	55	53.4%
	その他	4	8	0	1	0	13	
	無回答	0	0	0	1	0	1	1.0%
計		55	30	5	6	7	103	87%
（%）		53.4%	29.1%	4.9%	5.8%	6.8%		



通院の頻度と地区の比較では、「1か月に1回」の割合は「江川崎」の方が64.7％高く、「津大」では「2か月に1回」の割合が25.5％と「江川崎」に比べて高い傾向にある。「江川崎」には、四万十診療所があり、頻回に通いやすい環境にあることが要因と考えられる。

地区　×　移動販売等の利用

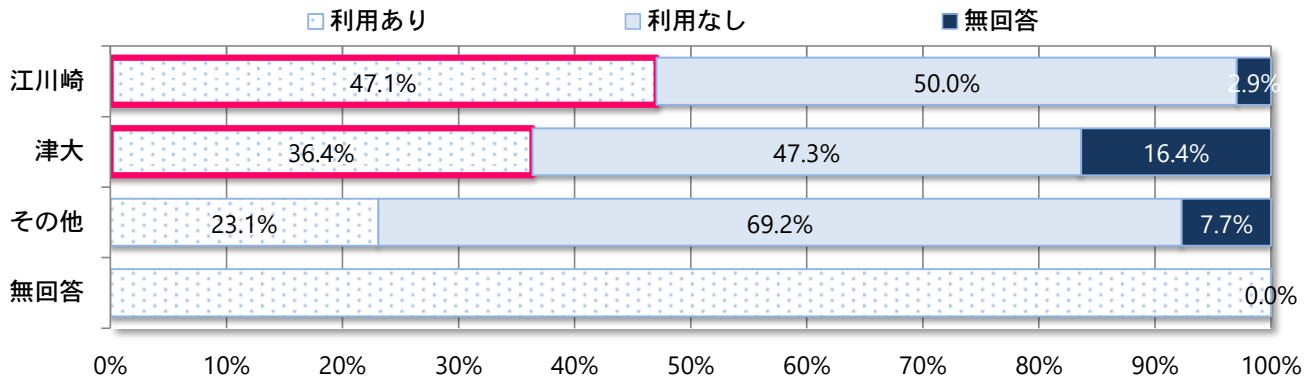
		行商等の利用			計	（%）
		利用あり	利用なし	無回答		
性別	江川崎	7	26	1	34	33.0%
	津大	22	24	9	55	53.4%
	その他	2	10	1	13	
	無回答	0	1	0	1	1.0%
計		31	61	11	103	87%
（%）		30.1%	59.2%	10.7%		



移動販売の利用状況と地区の比較では、「利用あり」の割合は「津大」の方が40.0％と高い傾向にある。

地区　×　市外のスーパーの利用

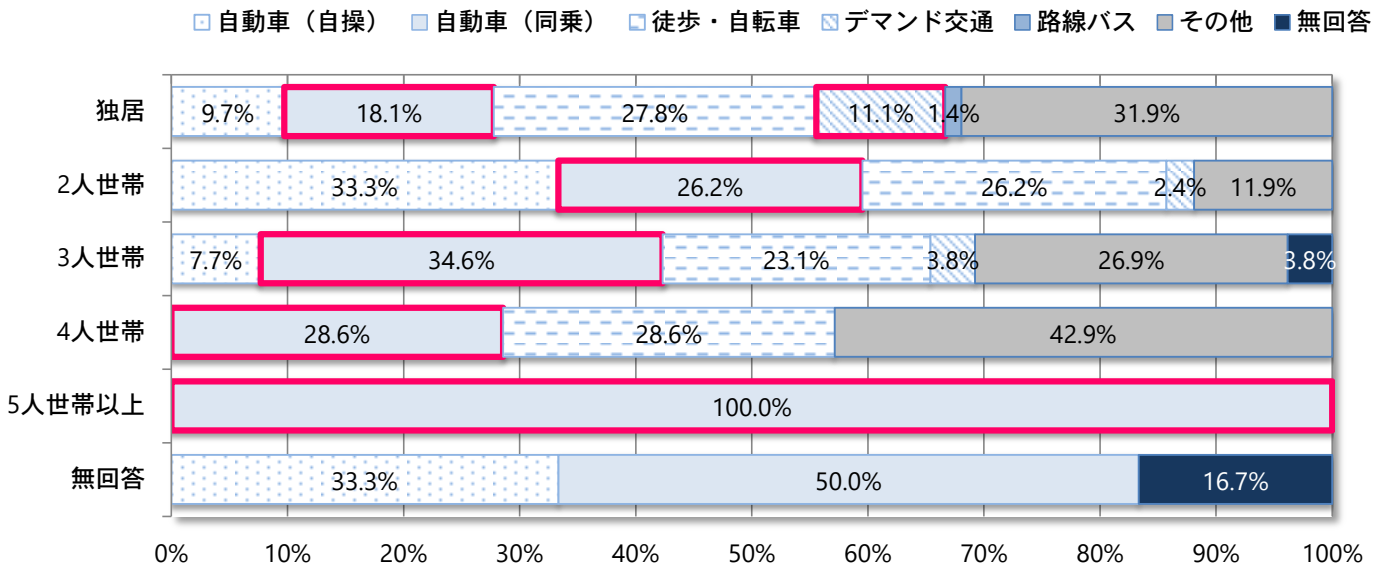
		市外のスーパーの利用			計	（%）
		利用あり	利用なし	無回答		
性別	江川崎	16	17	1	34	33.0%
	津大	20	26	9	55	53.4%
	その他	3	9	1	13	12.6%
	無回答	1	0	0	1	1.0%
計		40	52	11	103	100%
（%）		38.8%	50.5%	10.7%		



市外のスーパー利用状況と地区の比較では、「利用あり」の割合が「江川崎」の方が47.1％と高い傾向にある。愛媛県よりの江川崎や南津の一部地域では、愛媛県で買い物をしている状況が予測できる。

世帯の状況　×　移動手段（買い物）

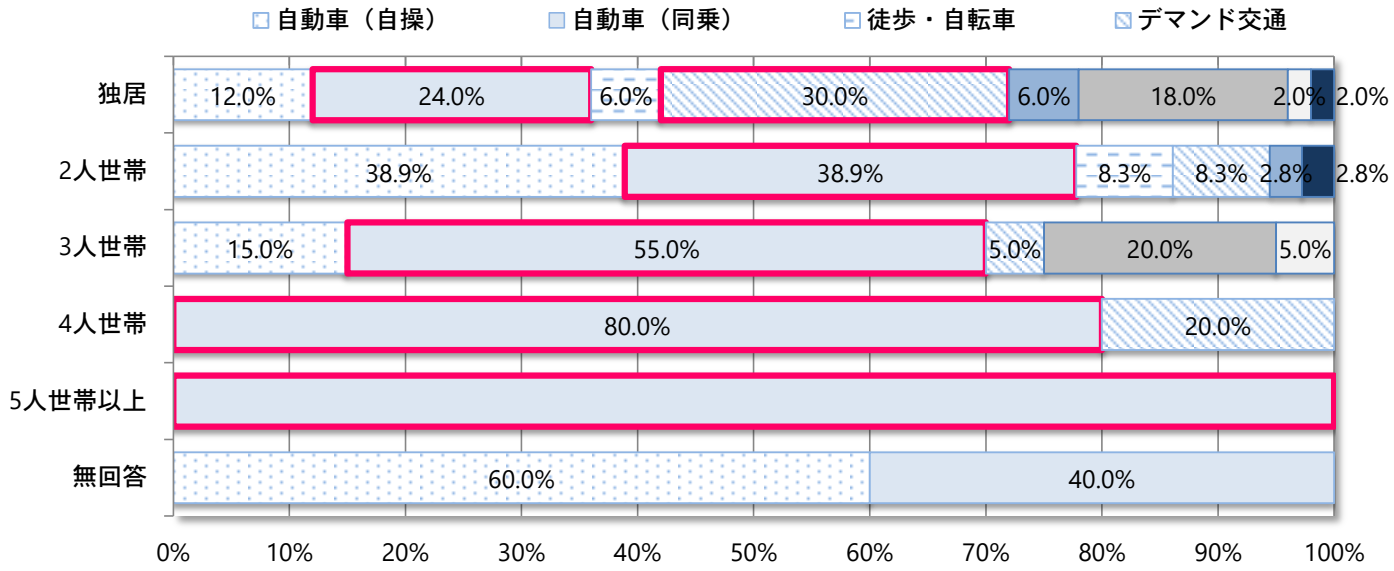
		移動手段（買い物）							計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	その他	無回答		
世帯の状況	独居	7	13	20	8	1	23	0	72	46.5%
	2人世帯	14	11	11	1	0	5	0	42	27.1%
	3人世帯	2	9	6	1	0	7	1	26	16.8%
	4人世帯	0	2	2	0	0	3	0	7	4.5%
	5人世帯以上	0	2	0	0	0	0	0	2	1.3%
	無回答	2	3	0	0	0	0	1	6	3.9%
計		25	40	39	10	1	38	2	155	100%
（%）		16.1%	25.8%	25.2%	6.5%	0.6%	24.5%	1.3%		



買い物の移動手段と世帯の状況の比較では、世帯人員の増加に伴い、「自動車（同乗）」の割合が高くなる傾向がある。「独居」では、「デマンド交通」の利用割合が11.1％と高い傾向がある。

世帯の状況　×　移動手段（通院）

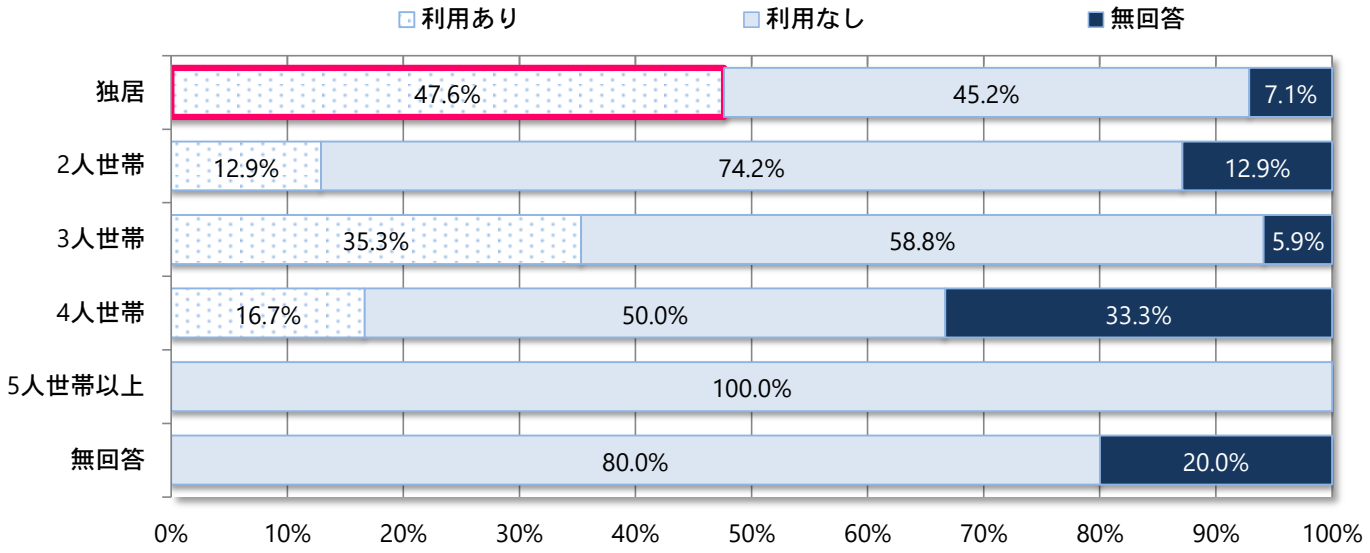
		移動手段（通院）								計	（%）
		自動車（自操）	自動車（同乗）	徒歩・自転車	デマンド交通	路線バス	診療所バス	その他	無回答		
世帯の状況	独居	6	12	3	15	3	9	1	1	50	42.4%
	2人世帯	14	14	3	3	1	0	0	1	36	30.5%
	3人世帯	3	11	0	1	0	4	1	0	20	16.9%
	4人世帯	0	4	0	1	0	0	0	0	5	4.2%
	5人世帯以上	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1.7%
	無回答	3	2	0	0	0	0	0	0	5	4.2%
計		26	45	6	20	4	13	2	2	118	100%
（%）		22.0%	38.1%	5.1%	16.9%	3.4%	1300.0%	1.7%	1.7%		



通院の移動手段と世帯の状況の比較では、世帯人員の増加に伴い、「自動車（同乗）」の割合が高くなる傾向がある。「独居」では、「デマンド交通」の利用割合が30.0%と高くなっている。

世帯の状況　×　移動販売等の利用

		行商等の利用			計	（%）
		利用あり	利用なし	無回答		
世帯の状況	独居	20	19	3	42	40.8%
	2人世帯	4	23	4	31	30.1%
	3人世帯	6	10	1	17	16.5%
	4人世帯	1	3	2	6	5.8%
	5人世帯以上	0	2	0	2	1.9%
	無回答	0	4	1	5	4.9%
計		31	61	11	103	100%
（%）		30.1%	59.2%	10.7%		



移動販売等の利用状況と世帯の状況の比較では、「独居」で「利用あり」が47.6%と高くなっている。

西土佐地域の高齢者の外出に関するアンケート調査まとめ

回答者の内訳

「女性」が94.2％を占めており、本調査における「男性」の回答者はわずか4.9％と低くなっている。年齢では、「75～84歳」が47.6％、「85歳以上」が37.9％となっており、75歳以上の高齢者が85％以上を占めている。同居者の有無では、「無し」が40.8％、「有り」が58.3％となっている。

まとめ・考察

買い物に出かける際の主な移動手段で多いのは、「自動車（同乗）」となっており、次いで「徒歩・自転車」となっている。高齢者の場合、「徒歩・自転車」で出かける範囲は限定的であり、天候などの影響も受けることになる。その点、必要な商品を家の前まで届けてくれる移動販売は西土佐地域のニーズに即した社会資源と考えらる。その移動販売の利用者で多くを占めるのは、年齢層では「85歳以上」、世帯構成では「独居世帯」となっている。

通院に出かける際の主な移動手段で多いのは、「自動車（同乗）」となっており、買い物の同項目以上に高い割合を占めている。また、通院時は「デマンド交通」を利用する割合も高い傾向にあり、考えられる理由としては、診療所の受診の際は運賃が無料である点に加え、高齢期の医療機関の受診では、あらかじめ診療日時がきちんと予約されている場合が多い点や、買い物と比較して、頻度が少ないため娘や息子といった家族が送迎のために仕事等の都合をつけて送迎の対応を行いやすいこと等が予測できる。その他、今回の調査で明らかになったことは、「自動車（同乗）」と答えた場合の運転者の内訳では、買い物・通院ともに「知人」と回答した方が15.9％となっており、少なからず乗り合わせ等の助け合いが展開されていることがわかった。

「デマンド交通」を利用されている方の性別の比較では、女性が高く、男性が低い傾向がある。デマンド交通に対する意見は多く聞かれており、バス停までの移動の大変さや乗り降りの際の困難さ、手続き（予約）の面倒さや本数や運行曜日に対する要望などが聞かれた。また、視力低下などにより時刻表が見えない等の意見もある。こうした状況もあり、急用時にも対応可能なタクシーを希望する声も多く聞かれている。

加齢に伴い「自動車（自操）」の割合は低下し、「自動車（同乗）」の割合が増加する傾向があり、自身や配偶者の心身機能の低下などを理由に外出手段が限定的になっている状況が予測できる。買い物の頻度を世代別に見ると多くを占めるのは全ての世代で「月0～5回」が多くなっており、通院においても「月1回」が半数以上を占めている。西土佐地域では、買い物、通院ともに市外に及んでいるケースが多く、江川崎や津大（北津）でその傾向があり生活圏域が異なる。

調査を終えて

移動は「手段」であって「目的」ではないため、西土佐地域の高齢者が移動しなければいけない状況をきちんとアセスメントすることが必要である。交通網の改善・改良・開発は地域住民だけでは到底対処することができないが、移動から生じる生活課題を詳細に分析することで、地域住民が主体となり取組める課題も自然と見えてくるはずである。

今後、更なる高齢化や単身化に伴い、外出に困難を抱える高齢者の増加が予測される。限られた人材・資源・財源を活用し地域の高齢者の日常生活を支えていく必要があり、住民をはじめ専門職や多様な機関や事業所との連例により効果的で効率的な社会資源の開発を図っていくことが必要となる。本調査がその取組みのきっかけになればと考える。